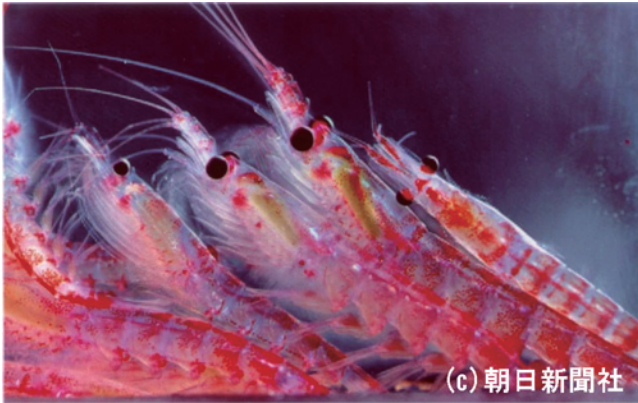


ナンキョクオキアミ 南極海

Antarctic Krill, *Euphausia superba*



(c) 朝日新聞社

生物学的特性

- 寿命：5～7 歳
- 成熟開始年齢：雌 2 歳、雄 3 歳
- 産卵期・産卵場：12～3 月、南極海の陸棚、陸棚斜面水域
- 索餌期・索餌場：主に夏季・南極大陸寄りの南極表層水域
- 食性：(夏) 植物プランクトン、(冬) 動物プランクトン・アイスアルジー・デトリタス
- 捕食者：海産哺乳類、海鳥類、魚類、いか類等

利用・用途

養殖・漁業用の餌料、釣餌、食品等

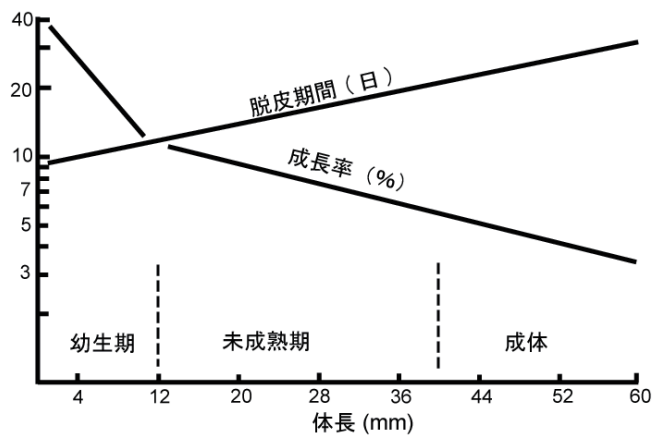
管理・関係機関

南極海洋生物資源保存委員会 (CCAMLR)

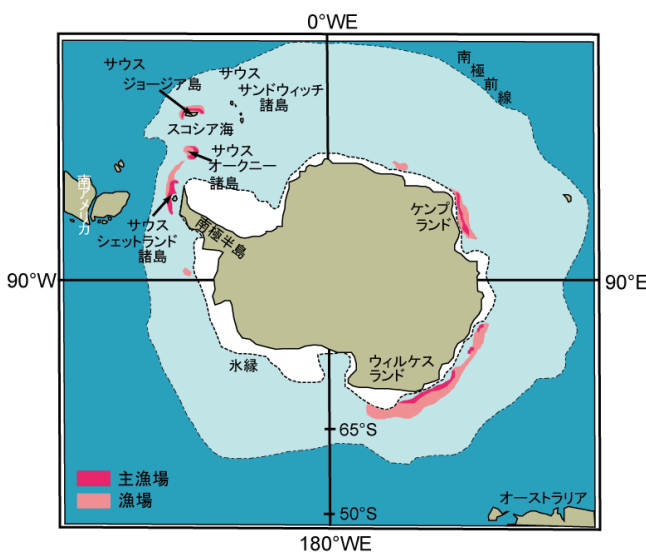
最近一年間の動き

2005/06 漁期のオキアミ総漁獲数量実績は、106,589 トンであった。国別実績は、最大量が韓国 43,031 トン、日本 32,711 トン、以下、ウクライナ 15,206 トン、新規参入のノルウェー 9,228 トン、ポーランド 6,413 トンと続く。2005/06 年漁期は、国別漁獲量に変化がみられ、前漁期はバヌアツが第 1 位 (48,389 トン) であったが漁獲中止し、韓国が第 1 位となった。我が国は前漁期 22,793 トンから今漁期は約 1 万トン増加した。

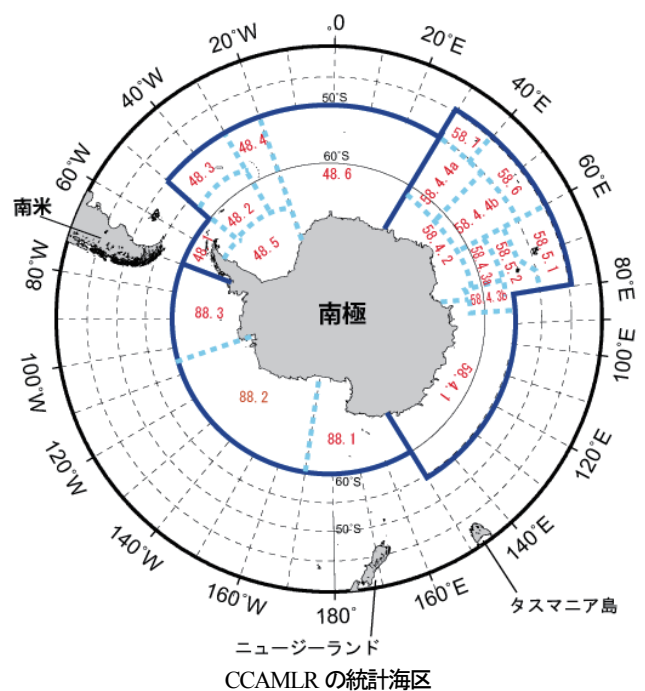
2006/07 漁期は 48 海区で実施され、現時点では未集計だがほぼ 2005/06 漁期並みと予想されている。次漁期 2007/08 年のオキアミ操業計画は、9 カ国メンバーが総計 68.4 万トン (2006/07 漁期 36.8 万トン) を通知した。しかし、通知量と実際の漁獲量の乖離に対する加盟国の強い懸念がある。



ナンキョクオキアミの成長率と脱皮期間



ナンキョクオキアミの漁場・主要漁場



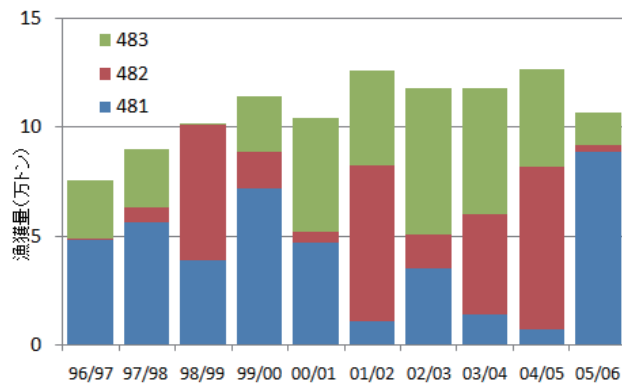
CCAMLR の統計海区

漁業の特徴

スコシア海 48 海区のオキアミ漁獲量は、近年約 10 万トン強で以来比較的安定しているが、国別では 2004/05 年と 2005/06 年漁期を比べると、我が国は (22,793→32,711 トン) と増加した。最大漁獲国の韓国 (26,920→43,031 トン) は大幅に増加した。現在までオキアミを漁獲したことのある国は、アルゼンチン、チリ、ドイツ、スペイン、英国、日本、韓国、ラトビア、ノルウェー、パナマ、ポーランド、旧ソ連、ロシア、ウクライナ、ウルグアイ、米国、バヌアツおよび南アである。現在の漁場は、大西洋海区が中心で、特にスコシア海域は、漁船の寄港地の南米大陸に近く、資源も豊富と言われる。過去にはインド洋海区でも漁獲されていた。

漁業資源の動向

ナンキョクオキアミ (以下オキアミ) 操業が世界的に始まったのは 1972/73 年シーズンからであり、旧ソ連が、7,400 トンを漁獲した。オキアミ操業が本格化した後の世界全体の経緯は、1976/77 年になると 10 万トンを超え、1978/79 年には 30 万トン強へ増加し、1981/82 年に最大漁獲量 50 万トン強に到達した。しかし、この後の数年間で漁獲量は、オキアミ商品化の停滞と、漁獲努力が魚類へ移ったことで大幅に減少した。1986/87 年から 1990/91 年までの年間オキアミ総漁獲量は、35 万から 40 万トンの間で安定したが、1992/93 年には、前年の 30 万トンから 8 万トン台へ大きく減少した。これは、旧ソ連からロシアへ移行した政治体制の大きな変化により、ロシア漁船が採算を取れないという経済的理由でオキアミ漁業を中止したためである。1992/93 年以降から現在までのオキアミ年間漁獲量は、10 万トン前後で推移している。ただし、漁獲計画の通知量は 2007/08 年漁期で 68 万トンとなり、主漁場の 48 海区のトリガー規制値 62 万トンを超えた。予定通知量と実際漁獲量とでは 50 万トン強の乖離があるが、世界的に漁獲への関心度がきわめて高いことを示唆する。2006/07 漁期は、4 カ国の漁船で 48 海区でオキアミ操業を実施した。本年 10 月時点の総漁獲数量は 104,364 トンでほぼ昨年並みである。



ナンキョクオキアミ漁獲量の海区毎の推移(1996-2006) (CCAMLR 2007a)

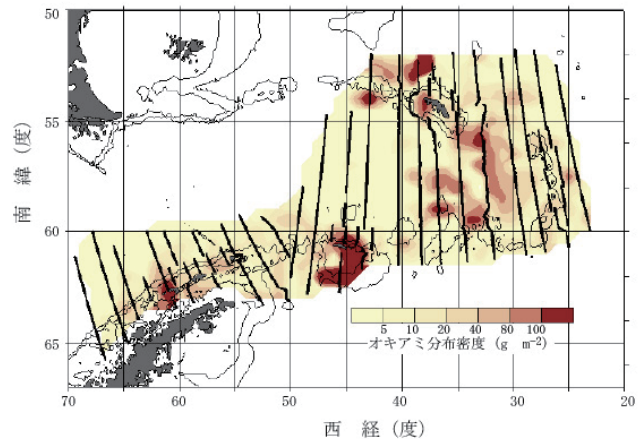
資源状態

本資源の漁業が本格的に開始する 1972 年より前には、南極海全体で資源量は数十億トンと予想されていた。1981 年に

計画された BIOMASS-FIBEX (調査面積 $396.1 \times 10^3 \text{km}^2$) で、スコシア海 (48 海区) の資源量は 3,540 万トンと推定された。2000 年に、日・米・英・露の 4 カ国の調査船で、スコシア海で一斉調査を実施し (調査面積 $2065.2 \times 10^3 \text{km}^2$)、48 海区の資源量を、科学的最善値として 3,729 万トン (変動係数 20.86%) を算定した。調査面積の増加により、FIBEX 値より CCAMLR 管理区域の資源量は増えた。スコシア海以外でオキアミ資源として利用されている場所は、インド洋区の 58.4.1 海区と 58.4.2 海区であるが、その他の海区では適切な資源量は見積られていない。

管理方策

CCAMLR は、条約水域を海区に区分し、その海区ごとに保存管理措置を決定する。2007 年現在の本資源への CCAMLR の保存管理措置は、スコシア海・インド洋区の 2 海区に設定されている。さらに、ペンギン、アザラシ等のオキアミ捕食者の餌場への悪影響を分散するため、スコシア海 (48 海区) で漁獲量が 62 万トンを超える場合は、現在検討中の小規模管理ユニットに漁獲制限が適用される。



2000 年国際共同一斉調査結果による本資源の分布密度

資源評価まとめ

■ 資源評価は CCAMLR あるいはメンバー国独自の調査研究活動の成果に基づき実施

資源管理方策まとめ

■ CCAMLR 保存管理措置による海区毎の予防的漁獲制限量: 48 海区 347 万トン、58.4.1 海区 44 万トン、および 58.4.2 海区 264.5 万トンとそれぞれに取り決めている。
 ■ オキアミ捕食者の悪影響を分散させるため、予防的漁獲制限量を小規模管理ユニットへの小分割を検討中。

ナンキョクオキアミ (南極海) の資源の現況 (要約表)

資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	10.7~12.7 万トン 平均: 11.9 万トン
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	2.3~6.0 万トン 平均: 4.0 万トン